

令和二年十一月二十五日刊行!

小藩大名の家臣団と陣屋町 1

— 近畿 —

米田 藤博

クレス出版

小藩大名の家臣団と陣屋町 1

— 近畿 —

米田 藤博



クレス出版

著者のライフワークとして始まり、各地域の小藩の藩領・武家地の現存建物遺構や現況を調査する為、諸所に足を運び、資料をまとめた、シリーズ初の「近畿地方」編を改訂。新装版として刊行!



■ 既刊

小藩大名の家臣団と陣屋町 4 — 東北・北関東地方 —

A5判 / 並製 / 398頁 / C3025

本体価格 6,000円 (税抜)

ISBN 978-4-86670-059-5

— 収録地方 —

< 東北地方 >

I 陸奥国

II 出羽国

< 北関東地方 >

I 常陸国 (茨城県)

II 下野国 (栃木県)

III 上野国 (群馬県)

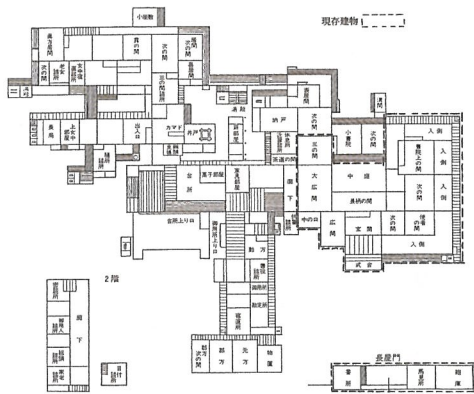


図18 栢原陣屋御殿図
 (「栢原陣屋御殿図のパンフレット」を転載)

長屋門を入ると正面に玄関の式台があった。玄関を入った東の部分は接客用の表御殿であり、玄関左手を西へ突出した部分が御用所、さらに表御殿・御用所の北東に台所・中奥(中御殿)・奥御殿が続いていた。これらの建物はすべて接続し、表御殿・御用所・台所・中奥・奥御殿の区画が判然としていなかったようである。庭園は表御殿の東側から、奥御殿の東にかけての山麓であった。

表御殿は接客用の部分であって、幕府の使者や要人などと接する場であり、また藩の諸行事に利用されたと思われる。御用所は藩庁のことで、藩政を行なう場であり、この部分は二階建てとなっていた。また東御門の東側に庭があり、奥御殿東側の庭園を隔てて調練場があった。調練場は江戸末期の造成である。

陣屋の北西に尚徳門があり、門を入ると藩校の崇徳館である。崇徳館

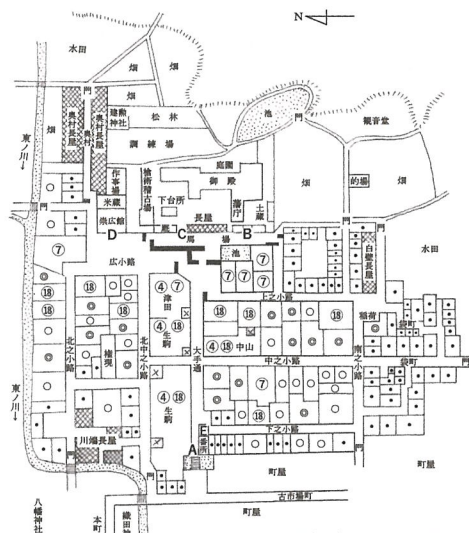


図19 江戸末期の栢原陣屋と郭内(「丹州栢原絵図」を基に作成)

は約370坪あり、崇徳館の東に扶持米蔵があって、さらに東に作事場があった。

陣屋の南側は一段低く、畑として利用され、その東側に池があった。この畑は庶民の立ち入りが禁止され、織田家の菜園であったと考えられる。さらに南の畑の中に、射的場が存在した。

郭内は東西2町(約220m)、南北4町(約440m)で、陣屋北側では1

「小藩大名の家臣団と陣屋町 1 -近畿地方-」より

—収録地方—

- I、近江国(滋賀県)
- II、丹後・丹波国
- III、大和国(奈良県)

- IV、摂津・河内・和泉国
- V、但馬国(兵庫県)
- VI、播磨国(兵庫県)

<著者紹介> 米田 藤博(こめだふじひろ) 1934年奈良県生まれ
 1960年 大阪学芸大学(現大阪教育大学) 地理学専攻卒
 1995年 大阪府立大和川高等学校定年退職

<著書(共同執筆)>
 『角川日本地名大辞典29(奈良県)』(角川書店) ほか

<新装版>
 第2巻 「中国・四国・九州地方」
 第3巻 「南関東・中部地方」
 2021年3月刊行予定!

株式会社クレス出版 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 14-5 M0-10日本橋
<http://www.kress-jp.com/> TEL03-3808-1821 FAX03-3808-1822

株式会社クレス出版	著者：米田 藤博	番線
小藩大名の家臣団と陣屋町		第1巻
新装版 第1巻 -近畿地方-	本体価格6,000円(税抜) ISBN978-4-87733-998-2	第4巻
既刊 / 第4巻 -東北・北関東地方-	本体価格6,000円(税抜) ISBN978-4-86670-059-5	